

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

文化財めぐりの案内をして！

文化財調査・普及員の主な活動は文化財パトロール、普及事業へのスタッフ参加ですが、その他に文化財の案内解説等も行っています。今回はそうした案内解説でのひとコマを紹介します。

5月22日に市内文化財めぐりの案内をしました。依頼者はあじさい大学の歴史講座修了者のOBの方々でした。

希望見学先が東部班と南部班の2つの地域にわたっていたので、この両班に案内役が割り当てられました。

日程の前半は、東部班の担当者がOB会の皆さんに同行する形で、①矢部の村富神社、②淵野辺の新田稲荷神社（呼ばわり山）、③東淵野辺の龍像寺、④相模女子大学構内の旧陸軍通信学校将校集会所・庭園の4箇所を案内しました。

後半は、南部班が引き継ぎ、各見学地点に案内人を専任的に張り付ける形で、⑤下溝の天応院、⑥当麻の東原古墳、⑦当麻山無量光寺を各担当者が分担して案内しました。

日程の最終地⑧史跡田名向原遺跡公園を案内して締めくくりました。

案内の中気付いたこと、感じたことを記しま



北条氏照の娘貞心様ゆかりの下溝天応院

目次

- ①・文化財めぐりの案内をして
- ②・見学者 100 余名！田名向原遺跡案内
・輝く鉄剣の銘文—さきたま古墳—
- ③・プロを招いての学習会：相模野基線
・石工守屋貞治の作品を追って
- ④・開拓のよすがを訪ねて一直線！？
・文化財保護課からのお知らせ

す。龍像寺では、寺号にまつわる伝説を話しながら寺に伝わる「龍の骨」

の写真資料

を見てもらったところ、皆さん一様に驚きの声をあげられたことが印象的でした。視覚資料の威力を感じたひとコマでした。

無量光寺の案内では、一遍上人にまつわる伝承やお墓の存在などを案内したのですが、「一遍さんは本当に相模原に来たのか？」との質問にあいました。

このことについては、肯定説＝来た説に立って案内をしていると説明したのですが、それで良かったのかどうか悩みが残りました。

遺跡公園では、田名向原遺跡が2万年前から人が住み続けてきた地であったということに歴史のロマンを感じている様子でした。

今回案内解説を行って、さらに自己研修の強化を図る必要があると感じました。

(南部班 畠山)



当麻東原古墳公園にて

6月1日の見学者 100 余名！

田名向原遺跡の普及を図るため、文化財調査・普及員の有志で実行委員会を作り、現在第1、3日曜日に定期案内解説を行っています。

3月～5月は平均60名ほどでしたが、6月1日(日)には100名を越す見学者がありました。この日は、広報さがみはらに定期案内解説の記事が掲載され、記事を見て来られた方もいたようで「オープンを楽しみにしていました」との声も聞かれました。

午前中はそれ程多くなかった見学者が、午後には家族連れを中心に多く来られました。フリー客が多い中、中央大学の地質専攻の学生数名のグループも来ていました。この日は午後からグングン気温が上がり、木陰のない中、スタッフは休憩する暇もなく(?)、熱心に説明をし、少々疲れ気味でしたが、多くの方が来てくれたことで、逆に達成感を得ることができたと思います。

田名向原遺跡の定期案内解説

私は、この日がガイドデビューの日でしたが、リーダーの森さんの後について、ガイドのテクニックを参考とし、無事乗り切ることができました。今後も多くの見学者が来られることを期待するとともに、ガイドのレベルアップを図っていききたいと思います。

(田名向原遺跡案内・普及事業実行委員会 山田町)



縄文時代の竪穴住居も行列

金色に輝く鉄剣の銘文に魅せられて —さきたま古墳公園—

6月6日(金)、埼玉県北部にある行田市の、さきたま古墳公園を訪れました。南部班2名を加え、総勢11名での見学です。

まず埼玉県立さきたま史跡の博物館で、園内にある5世紀後半から7世紀初めに造られた埼玉古墳群(大型の前方後円墳8基、日本最大の円墳1基)と、その出土品について、学芸員から解説を受けました。

中でも、展示されていた国宝金錯銘鉄剣(稻荷山古墳出土471年製作と推定)に刻まれている115文字の



現在でも
金色に輝く
銘文

銘文が、その内容の重要性もさることながら、今でも金色に輝いていることに感銘をうけました。

午後からは古墳巡りです。長方形の二重の周濠、西側の造出しに注意を向けながら、前方後円墳をかけ巡り、最後に直径105mもある丸墓山古墳の上から、古墳群と行田市内の眺望を楽しみ、見学を終えました。

バスが1日5便のため、現地滞在わずか4時間でしたが、濃縮された時間となりました。

(考古班 余語)



日本最大級の円墳 丸墓山古墳

プロを招いての学習会—相模野基線—

身近な文化財でも、外からの視点で見直すと新しい側面が見えてくることがあります。

その一つに「相模野基線北端点」があります。南部班では、毎月第3火曜日にミーティングをおこなっていますが、4月の例会に、相模台在住の真崎康男氏（高速道路設計等の専門家を招いて、改めて学習する機会を得ました。



相模野基線の裏話も聞きました…

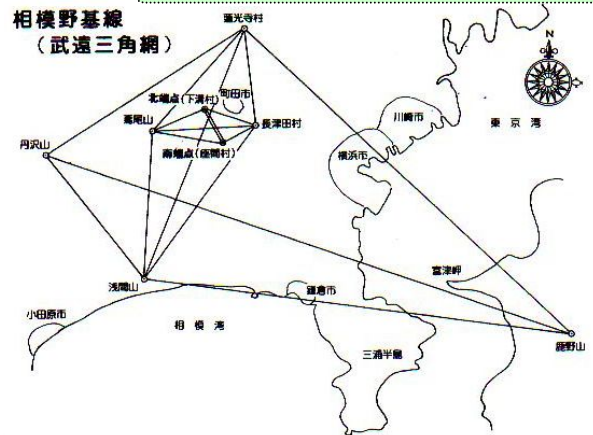
- ・ 相模野基線とは
 - ・ 基線測量の歴史（一等三角点、フタツカ【二ツ塚】・ボンテン【高い櫓】等も）
 - ・ 相模野基線位置図（明治三十一年測図）
 - ・ 平面直角座標への換算から基線を算定してみた（真崎氏自身がおこなったもの）等々
- 5月例会では、この学習会を基に、座間市にあ

る「中間点」・「南端点」の見学もおこないました。

明治時代には、それぞれの点から「武遠三角網」の各点が見通せたということも、現在の街並みの様子からはとても信じられないことでした。

（南部班 千葉）

座間中央ロータリークラブ発行資料より転載



相模野基線…明治時代の近代測量の基準線。麻溝台4丁目に北端点、座間市内に南端点がある。

石工守屋貞治の作品を追って

1冊の本とデジカメを持って松本行きの普通列車に乗るのは、この日で5回目でした。目的は、守屋貞治の作品を見るためです。

守屋貞治は、江戸時代後期の石工です。生れは高遠石工で有名な信州高遠藩藤沢郷で、広い範囲に多くの石仏を遺しています。はじめて貞治の石仏に出会ったのは、1年前に訪れた上諏訪にある温泉寺でした。参道の右側に建つ三つの堂に11体ずつ納められた西国三十三観音は、端正で木彫仏にも劣らない繊細優美なものでした。また、境内に建つ5体の地蔵尊は、経典・教義を学び、熱い信仰心から刻まれた荘厳さを感じられました。

この日の目的地は松本の神宮寺でした。松本駅からバスで約20分、終点の浅間温泉からほど近い寺の入口に建つ地蔵堂に、貞治の作品は納められていました。延命地蔵大菩薩、像の高さ約1m半、台座を含めると優に2mを越す

堂々たる半跏坐像です。半眼で微笑むようなお顔は慈悲に満ち満ちています。台座にある造立年の文政9年（1826）は貞治62歳、晩年の作品で円熟味が感じられます。

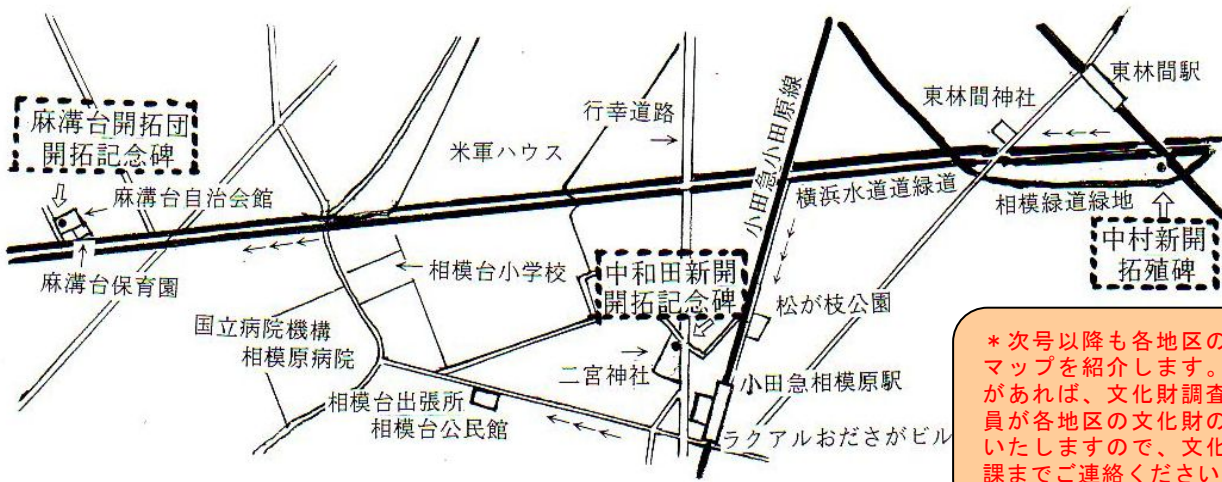
貞治が造立した石仏336体の内、2/3強の233体が長野県と山梨県に集中しています。これからも貞治の作品を追って、中央線の旅は続きそうです。

（北部班・橋本）



松本・神宮寺の『延命地蔵大菩薩』

開拓のよすがを訪ねて一直線！？—横浜水道みち沿いの開拓記念碑—



* 次号以降も各地区の文化財マップを紹介します。ご要望があれば、文化財調査・普及員が各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。

相模原台地は水の便が悪く、ノイバラや茅の繁茂する荒れ野でしたから、開拓者たちにとっては、文字どおり血にまみれ、汗にまみれ、土にまみれての厳しい開拓事業でした。そんな開拓者たちの苦労を刻んだ石碑が、相模原市東南部に3つありますので、横浜水道みちを中心に約4キロの道を散歩がてら訪ねてみました。

出発点は、小田急の東林間駅近くの横浜水道みちと交差する小さな公園内にある中村新開の「拓殖碑」。横浜水道が開通した翌年の明治21(1888)年に、水道みち沿いに入植が行われ、碑は開拓50周年を記念して昭和12年に建てられました。

横浜水道みちを西へ進み、小田急線を渡り行幸道路沿いの二宮神社脇にあるのが中和田新開の「開拓記念碑」。明治13(1880)年頃着手された、この地域の開発の基礎となる開拓でした。横浜水道みちは途中米軍ハウスで通せんぼされていますので、商店街を歩いて麻溝台へ。戦後、満州開拓団の引揚者等を中心に入植した麻溝台開拓団の「開拓記念碑」。

どの記念碑にも裸一貫で飛び込んだ開拓者たちの壮絶な苦労と熱い思いが刻まれています。
(東南班 山田真)



文化財保護課からのお知らせ

川尻石器時代遺跡、津久井城跡の発掘調査始まる

7月より川尻石器時代遺跡と津久井城跡の発掘調査が始まります。川尻石器時代遺跡では、縄文時代後期の敷石住居の発見が期待できます。また、津久井城跡では、昨年度までに確認されている塹堀の詳細調査を行います。8月24日(日)に津久井城跡、9月21日(日)に川尻遺跡の遺跡見学会を予定していますのでご期待ください。詳細は広報さがみはら等に掲載します。



川尻石器時代遺跡の配石遺構群

* 文化財調査・普及員有志の実行委員会にて、第1,3日曜に田名向原遺跡定期案内・解説(7,8月休み)及び古民家園普及事業(第4日曜)を実施しております。その他、文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」のバックナンバーは次の手順で閲覧できます。

相模原市ホームページ → 観光・文化 (一覧を表示) → 文化財・史跡 → 文化財調査・普及員

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371